

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0572610129		
法人名	有限会社 水谷		
事業所名	グループホームおおた		
所在地	大仙市太田町齊内字中田201		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年12月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1 コロナ禍の中でも地域との連携や交流に力を入れています。 花植えやゴミ拾い、避難訓練(炊き出し)を今年度も行いました。</p> <p>2 家庭的な雰囲気の中で利用者さんが生き生きと過ごされています。</p> <p>3 自立した生活が継続できるよう、口の運動、身体の運動、脳の運動を行なっています。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>農村地帯の一画にあるホームは、敷地内に展開している複数の介護事業所と共に地域との交流を大切にしながらお互いに支え合う関係を築き、地域に親しまれるホームづくりを実践しています。コロナ禍にあっても蜜な空間になる場所を避けて外出しており、広大な畑で採れる新鮮な食材を用いて食事を提供し、できる限り普通の生活が送れるよう努力しています。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍の中でも、規模を小さくした勉強会やリモートでの会議を行い、理念に沿った暮らしができるよう、代表はじめ職員一同が支援に努めている。	地域との繋がりを大切にし、利用者が安心して暮らせることを目標にして理念がつけられており、カンファレンス、申し送り等で状況を話し合い、実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域との交流が少なかったが、その中でも地域の行事である、ゴミ拾いや、花植えなどに参加し、秋には、避難訓練/炊き出しの行事を地域の方と一緒にやり、交流を続けている。	今年は見送られましたが、法人の夏祭りは地域との繋がりが確認できる盛大な催しとなっています。地域の一員として、コロナ禍にあってもできることに法人全体で取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	研修や地域との交流の機会が少なかったが、運営推進会議を通して、民生委員、交番の巡査、家族の方々に認知症の方の生活状況など書面で報告した。また避難訓練の時は車いすの使い方を、地域の方に伝えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行なっている運営推進会議を今回は書面で行い、利用者の現状や生活状況を報告し委員の方からの意見を会議に取り上げてサービス向上につなげている。	感染防止のため、資料を送付して意見を伺う形式にしていますが、参加メンバーと意見交換し、提案等を受けてサービスの向上に活かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉事務所担当と生活保護受給者の方の件で相談したり、包括支援センターの方とは、運営推進会議を通して意見を頂き利用者さんが安心して生活できるよう支援している。	代表が行政と情報の交換をしています。認知症カフェは現在中止していますが、包括支援センター、福祉事務所とも連携を密にし、相談、提案等で協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束はないが、定期的に勉強会を開催し、必要時の対応を検討しながら、出来る限り拘束を回避するように努めている。	勉強会や日常業務を通して対象となる行為や不明な点について正しく理解できるように取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止の研修を行い周知に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表をはじめ全職員が「権利擁護・成年後見」について研修を行い、必要の応じて行政や家族に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は利用者家族等への説明を行い不安や疑問がないように十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用者さんの生活状況や事業所内の状況を手紙で伝えたり、家族や利用者へアンケートを出して、意見を頂いて会議に取り上げ反映させている。	苦情等に対応して改善した事例もあり、なかなか話しにくいことも意見、要望としてその思いを汲み取り、運営に反映できるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員が個別の面接を行ったり、事業所内で出た意見を、幹部会議に取り上げて、可能な限り反映させている。	話しやすい環境がつくられており、代表がホームに居ることが多いことから状況を把握しやすく、職員の意見や提案には前向きに対応し、反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月勤務表の確認や、仕事の様子を見て指導したり、面接などにより個々にあった勤務内容、勤務時間を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は、職員個々に技術指導を行ったり、研修の機会を作り、技術力を高めるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、会議への出席が減っているが、電話や オンラインなどで情報交換をして、交流をはかりサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやセンター方式を利用しながら、本人の人生の足跡を把握し理解につとめ、また本人の要望や意見を伺い、できる限り応えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントやセンター方式などを利用しながら、本人の人生の足跡を把握して家族の悩み事や要望に耳を傾け、今ある不安などを解決できるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で行われる仕事を利用者さんと職員が一緒になって行っている。また利用者さんからの意見も取り入れ日常生活が楽しく過ごせるようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が出来ない状態の中で、少しでも家族との関係が途絶えないよう、電話で話をしたり、写真や手紙を送り生活状況を伝えている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの美容院には、コロナが落ちついている時に、相手先の健康確認を行ってから外出してもらっている。また親族とは電話だけではなく、手紙なども書いて送っている。今後はオンラインでの面会ができるよう準備中である。	コロナ禍の現状をなかなか理解できない利用者もおりますが、可能な限り利用者の習慣が継続できるよう努力しています。面会を制限しているため、家族と墓参りに行くこともできませんが、電話で繋がりが保てるよう取り組んでいます。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、趣味が合う人など職員が把握し、その都度グループを作り、レクなどを楽しんでいる。また、席替えも頻繁に行い、利用者さん同士の親睦を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も年賀状や暑中見舞いのご挨拶をさせて頂いたり、退所後も電話で経過を知らせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話からや、センター方式、アンケートなどで本人や家族の意向や希望を把握するようにしている。	意思疎通が困難な方、思いを率直に伝えることができる方等、それぞれの利用者との日常の関わりの中で気づいたことをセンター方式を用いて記録、共有し、アセスメントに繋がっています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話やセンター方式などから把握するように努めている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に評価行ないながら、本人が望む生活、本人の状態にあった生活の把握に努めている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催して、本人の意見や家族からの意見、職員の意見を聞き取り介護計画に生かしている。	毎月担当職員の話をもとにモニタリングを行い、6ヶ月を目途に介護計画の見直しを行っています。カンファレンスで職員の意見を確認し、家族の意向も参考にして作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録に記載して定期的に個別の介護計画を見直ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して、個々にあった支援が行えるよう取組んでいる。また散歩の時に近所の方から野菜の育て方を聞いたり、花の植え方を聞いて、後日、鉢に植えたりしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、家族や本人がかかりつけ医や薬局を選択している。また定期受診については必要に応じ職員が同行し、受診記録に記入し健康管理に努めている。薬局については必要に応じ、服薬についての指導を受けている。	入居前からの医療機関で継続受診しています。毎月協力医による訪問診療が行われており、緊急時の対応も可能です。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活状況や、体調、服薬に関して相談し、利用者が適切な受診や介護を受けられるように努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを交付して、生活状況や体調の変化が、いち早くわかるように努めている。また退院が決まれば、担当者会議を開催して退院後の生活を的確に行えるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に説明して、同意を得ている。また重度化した利用者に対して、家族とよく話し合い、事業所でできることを説明している。場合によりドクターの往診時に家族から来所してもらい、説明してもらっている。	協力医からは終末期の対応が可能であるということを伝えられていますが、職員の態勢が整わず、現状では看取りの支援は行っておりません。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生時についての研修を定期的に行い、全職員が対応できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い地域の方からも協力をもらい訓練を行っている。	26日を防災の日と定め、避難訓練の他、通報訓練等を定期的に行っています。地域の訓練では炊き出しを行う等、積極的に協力しており、指定避難場所が遠いことから法人施設全体が地域の避難場所ともなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を把握して、個々にあった言葉かけや、対応をしている。また方言を交えながらも、失礼のない話をするように注意している。	一人ひとりの性格や個性に配慮し、言葉遣いで相手を傷つけることのないよう対応に気をつけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいもの(メニュー)考えてもらったり、やりたいレクや、見たいテレビ番組など、自分たちが選べるようにしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が参加したくない行事やレクには、無理に参加しないで、本人がやりたい時にやりたいレクに参加してもらっている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ではできない方には、職員が手伝い、身だしなみを整えたり、その日の服装を一緒に選んだりしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考え、調理などをする事が出来る。役割を決め、楽しみながら行っている。	現在は専門職員が調理をしており、朝の職員が少ない時間帯には利用者も手伝っています。今後は以前行っていたように利用者も一緒に調理の過程を楽しんで食事ができるようにすることにしています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を定期的にチェックして、健康管理をしている。利用者さんごとに異なっている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っているが、介助が必要な利用者さんには職員が仕上げを行ったり、歯間ブラシで仕上げをしている。また定期的にコップや歯ブラシ、義歯などの消毒も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意がある方には、出来る限りトイレでの排泄が行えるように支援している。尿意がない人でも、排せつ記録を見たりしながら声掛けして、トイレ誘導をしている。	チェック表で確認し、トイレでの排泄を基本的に個々に応じた支援をしています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入して、一人ひとりの排泄を把握している。朝食に牛乳、お昼にはヨーグルトを提供している。また午前には、ラジオ体操をしたり体を動かす体操をしている。また昼食に、玄米ご飯を提供して排便を促している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴しているが、調子が悪い時などは曜日変更したり、清拭に切り替えたりしている。夏場などはお風呂以外に希望があればシャワーなども使用している。	強く拒否する方はいないものの、本人の希望やその時々タイミングに合わせて柔軟に対応しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休んで頂くために、布団の固さ、重さにも配慮している。夏は各部屋に扇風機を準備して本人に合った環境の中で休んで頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や薬の説明書を全職員が閲覧して、特に変更があったときには、慎重に確認している。状態に変化が見られた時などは、状態を細かく観察して医療機関へ報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんと一緒に役割を決めて、その人にあったものをやって頂いている。コロナ禍の中で楽しみは減っているが、中でも上手に生活し楽しんでもらえるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の中で外出が自粛されているが花見、山菜取り、ドライブ、紅葉見学など外部の方と接触しないように配慮して行っている。	感染防止対策をしながら花見等に出かけている他、プランターの水やりやホーム周辺を散歩してホームに閉じこもらない支援をしています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんによっては、お小遣いを財布に入れていて、病院内にあるコンビニで必要なものを購入している。また近くの洋品店から衣類をお借りして、ホームで選んでいただき購入してもらうこともある。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけられる人には、自分でかけてもらい、できない方には職員が介助している。また手紙の代筆も行ない、友達や身内の方との関係を築いている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けや、季節を感じられるような花などを飾ったりして居心地が良い空間づくりをしている。また動線上には物を置かないようにして安全に動けるよう配慮している。	利用者の体形に合わせて通常より低い位置にトイレや居室の案内表示を取り付けています。季節のものを一緒につくって飾りつけ、利用者には作成の過程を楽しんでいただけるように取り組んでいます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には椅子やソファなど置き、気の合う人同士が、ゆっくりと過ごせる場所を作っている。また一人で音楽を聴きたい方には場所を変えて音楽鑑賞をして頂いている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたベッドやタンスなどをもって来ていただいたり、写真を飾ったり、花を買ったりと、その人に合った居室づくりをしている。	使い慣れたものが環境づくりに大切であることを家族に理解していただき、協力が得られています。置き場所を確保するために棚を使用していますが、落下防止の工夫をして危険を回避する取り組みを期待します。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかるよう名前を付けたり、トイレには自分たちの使い慣れた言葉で、場所の名前を書いたりして工夫している。		